



慶應義塾大学ビジネス・スクール

王越みかん (A)

5

1. はじめに

ある土曜日の夕方、いつものように妻のお伴でスーパーへ買い物に来た A 氏は、小分けにされた袋入りのみかんが山積みされた果物コーナーの前を通りかかった。その時ふと、みかん農家である実家のことや、みかんの産地である故郷のことが頭に浮かんだ。「みかん農家はなぜ儲からないのだろうか？ そして衰退している故郷のみかん栽培はこのまま絶滅してしまうのだろうか？」

10

A 氏の実家は、香川県王越町でみかん農家を営んでいる。王越町で採れるみかんは、“王越みかん”としてある程度のブランドのあるかなり良い品質のみかんなのだが、両親の話によると全く儲からないとのことである。また儲からない割に作業が大変なことや後継ぎの不在から、王越町では廃業する農家や栽培を縮小する農家が跡を絶たないとも話していた。実家から毎年冬に送られてくるみかんは、スーパーで売られているものよりもずっと甘くみずみずしく、おいしいみかんであるにも関わらず、儲からないのは何故なのだろうか？ またかつては香川県下有数のみかんの産地であったにも関わらず、王越町のみかん栽培は衰退の一途である。これを食い止め、今後も維持していく方法はないのだろうか？

15

20

そんなことに思いを巡らせていると、突然妻に怒られた。「何ぼうっとしてるの！早くお米取ってきてよ！」

25

本ケースは、慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士課程 M32 期生の山本康裕と坂爪 裕准教授が共同で作成した。本ケースは、クラス討議の資料として用いるためのもので、経営管理の良否あるいは関係者の判断の適否を示唆するものではない。なお、ケースの記述にあたっては、王越農協ならびに王越町在住の 3 軒の農家の方々にお世話になった。ここに記して、心から感謝したい。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4 丁目 1 番 1 号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/> へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

30

Copyright© 坂爪 裕、山本康裕 (2011 年 6 月作成)